

## 教育課程編成委員会 第1回議事録

日 時：2018年8月21日(火) 18時30分～20時00分

場 所：東京YMCA医療福祉専門学校15教室

出席者： 三沢 幸史氏 望月 太敦氏 小檜山 修平氏

八尾 勝 中浦 俊一郎 倉持 有希子

列席者： 加藤 和貴 品川 智則 村上 剛

欠席者： 白井 幸久氏

I. 聖書日課 YMC Aデイリーメッセージ 村上

### II. 議事

#### 1. 委員会の進め方の説明

八尾氏よりアジェンダに従って委員会の進め方と資料の確認がされた。

#### 2. 委員自己紹介

出席委員及び列席者が自己紹介と近況報告をした。

#### 3. 委員長（議長）選出

白井氏が欠席のため八尾校長が代行することを提案。全員一致で決定。

#### 4. 部会に移動

介護福祉科の部会：望月氏、倉持、品川

作業療法学科の部会：三沢氏、小檜山氏、中浦、加藤、村上

部会に分かれ、7時40分まで（約50分間）介護福祉科と作業療法学科それぞれで話し合いを行った。

各学科長から、昨年の本委員会で頂いたご意見・ご提案を受けて、どのような展開したかなどの説明と今年度の工夫や力をいれている部分の説明を行い、その後、委員から意見、質問をいただきながら話し合いを進めていった。

#### 5. 部会報告

※それぞれの部会の詳細な記録は別紙に記載。

##### 1. 介護福祉科 倉持学科長より部会の様子の要約が報告された。

- ・在校生に合わせた学習の指導方法として、学生の国家試験委員会をつくり、学生自身が模擬問題を作成したりした。読解力アップのために、国試の問題の読み込みを行っている。ボランティア活動は今年度はさらに踏み込んでいる。「地域つながり隊」という名称で、地域活動を行うグループを立ち上げ、少しずつ

機能し始めている。学び合いの仲間を増やしている。近隣の認知症カフェに参加したりしている。

- ・委員からは、「(自分以外のいろいろな) 人がどのように生きていくのか学生が知るのは良いことである。地域で生きていく人になることが大切である。」などのご意見を頂いた。

## 2. 作業療法学科 中浦学科長より部会の様子の要約が報告された。

- ・4月からの新入生は、新たなカリキュラムがスタートした。これまでなかったサポートなどの対応が必要になることが出ている。
- ・ボランティア経験を増やすべく、地域のいろいろな活動に学生が参加している。
- ・国家試験対策は、1年間を通して学生が今どの段階にいるのかについて、自分自身で確認できるように、「見える化」を意識して指導している。
- ・介護福祉科の学生との関わり方を良い参考にして、更に学生との深いかわりをしなければいけないと考えている。

※両科とも学生基礎力の養成、国家試験対策の充実が課題との報告がなされた。

次回の委員会日程

2018年10月10日（水）18：30時～

記録 村上剛

## 2018年度 第1回教育課程編成委員会・部会（介護福祉科部会）記録

出席者：望月太敦氏 倉持有希子 品川智則

進 行：倉持有希子

記 録：品川智則

### 1. 昨年度、指摘いただいた内容等に関する現在の状況についての報告

倉持学科長から以下の報告がなされた。

#### 1) 学力が低下している学生への指導について

学習の流れ、つながりがわかるように2年間における学習マップを作成している。その学習マップにそって、学生には科目間のつながりや、学習の進み方などを客観的に伝えている。そのような中で学習の流れにうまく乗れない学生や、課題のある学生に対しては、「学習支援演習」の授業などでフォローをしている。学習支援演習では、勉強の方法や、見通し立てた学習など、通常の授業では、伝えることのできない内容などを実施している。また、授業外でのかかわりにおいては、時間割の空き時間や、長期休暇の期間を使用して、「寺子屋」の実施を継続している。寺子屋では、課題のある学生に参加を促し、少人数のグループを形成し、教員と一緒に勉強を実施している。

#### 2) 国家試験対策について

国試対策に関しては今年度も昨年度同様継続している。

2017年度の国家試験の結果、合格率は97%だった(35人受験で34人合格)。残念ながら一人だけ不合格になってしまった。国家試験対策では、先生の頑張りや学生の頑張りだけでなく、国家試験対策を合理的なシステムとして結果が伴う形になっていくことを意識し取り組んできている。例えば1年生のときには、学習支援演習の授業内で「国家試験とは何か。どのような形で出題されるのか？合格率は？合格の基準は？」などの国家試験に関する情報や、実際の勉強の方法についての紹介や過去問題を実際に解いてみるということも実施している。また2年次には、「国家試験委員」をクラス内で選抜する。教員から、意義目的を伝え、過去問題の選抜や、解説などは国家試験委員が中心となって作成していく。さらにグループ勉強会では、国家試験委員がグループメンバーに対して責任をもって問題の解説をするといった形をとっている。その結果、委員を中心に、分かる学生が他の学生に教え合うといった形をとることができた。

その他にも、夏休み・冬休みでは集中対策講座を実施。9月からは実習Ⅱがスタートするので、その時は実習に集中するようにするが、11月以降は学生のさまざまなグループを新たに形成しグループ学習を強化していく。そのグループはいろいろなメンバーで構成し、効果を上げていく。今年度も昨年度と同じように実施している。全体として、学生はまじめに行えている。国家試験に直接つながる内容・方法で実施している。例えば、文章の読解が苦手な学生に関しても、問題の長文を読み込むことで、基礎をあげていくことを実施している。

国家試験の合格率は学校の信用のためにも高い水準で保っていききたい。そのうえで、介護の意義目的などの視点もきちんと伝えていきたい。

### 3) ボランティア活動について

ボランティア活動を通して、他職種とのつながりや利用者がどのように地域とつながっているかを勉強できないかというご指摘があったが、今後カリキュラムが変更になり、実習でもそのような内容が求められるようになった。

そのような中で、今年度の4月から学生の課外活動グループとしての「地域つながり隊」を発足した。地域つながり隊とは、自分の学びを他人の学びにするもので、自己完結するのではなく組織的にボランティア活動を実施していくためのサークル活動である。メンバーの学生は、教員が選抜する。力がある学生等を意図的に、選抜している。実習先とのつながりにもなるために、実習先が実施している認知症カフェにも参加をしている。国立市内でもつながりを更に持とうということで、国立市の「ひらや照らす」とのつながりを持つようにしている。現在は、月一回の認知症カフェにメンバーが参加している。この施設は学校から近いので、継続して活動を行うことができている。今後は、学んだことを他のメンバーやサークルに所属していない学生、そして作業療法学科の学生にも伝えていきたいと考えている。

また、この「地域つながり隊」を通して、教員も地域とつながる機会が増えるきっかけとなっている。

## 2. 委員からの質問、意見、感想

望月委員より以下の発言があった。

### ボランティア活動について

学生の委員会や地域つながり隊などのグループ作りは、同じ仲間の体験が伝わっていくことが、大切である。以前は、自然発生的に勉強グループなどができていたが、今の学生の現状などをみるとグループを意図的に作成するのは良いと思う。自身の施設にボランティアに参加した本校の学生が、主体的にボランティアを実施することができていた。質問に関しても、今後施設としては地域とどのようにつながっていくのかなどの質問があった。このような学生の様子をみていると、地域つながり隊などの取り組みが良い影響を与え、地域に向けた視点が培われてきているのではないかと感じる。人がどのように生活していくかを知らないで自分の知らない人が、生きて生活していくことをイメージできない。イメージができなければ当然、利用者の生活を捉えていくこともできない。利用者の生活イメージで考える力を地域つながり隊などの取り組みで培われていけるのではないかと感じる。このような取り組みを行った学生が地域福祉などに力を入れている事業者などに就職すれば、すぐにも力を発揮できるのではないかと感じる。

以上

## 2018年 第1回教育課程編成委員会・部会（作業療法学科部会）記録

出席者：三沢幸史氏 小檜山修平氏 中浦俊一郎 村上剛 加藤和貴

進 行：中浦俊一郎

記 録：加藤和貴

### 1. 昨年度、指摘いただいた内容等に関する現在の状況についての報告

中浦学科長から以下の報告がなされた。

#### 1) カリキュラムについて

今回は1年生のカリキュラムが変更された。今後、2020年度に向けて変更する予定である。1年生の変更点としては、分野としては専門基礎分野をスリム化。100時間を60時間に減らした。これは学生の負担感を踏まえ、膨れ上がった授業数をそもそもの必要な単位数に戻したという経緯がある。専門分野に関しては増やしている。自習の時間を作ったが、定着もしつつあるので前半の中盤からは減らしている。カリキュラムポリシー、ディプロマポリシーも掲げ、学生が自分の位置で迷わないようにカリキュラムマップを作成した。

#### 2) ボランティアについて

「S o G o 学習」についての説明がなされた。この学習の目的は、「臨床実習における自主的な学び」である。作業療法のつながりのイメージや将来の臨床像の構築に役立つ。方法としては東京都OT協会 国立市障害者支援課 高齢者支援課などに行きボランティアをしている。キッズフェスタにも参加した。人と接することに少し抵抗がなくなったとの学生の感想もあった。学生に様々な機会に触れさせ、そこから自主的な学びを深めていけるようにしたい。本校の介護福祉科も「地域つながり隊」と称して学生がボランティアする機会を促進している。作業療法学科では基本的に全員がボランティアに参加するよう計画している。

#### 3) 国家試験対策について

年間計画を学生と共有している。大きく分けて前半は共通問題、後半は専門問題の対策である。前半は自分で学んだことを表現できる、また、アウトプットできるようにグループワークを行っている。先日模試を行った。既に180点（国家試験での合格ライン）の学生も出ている。現在は、学んだことをアウトプットする繰り返しを行っている。後半は同じような関わりでアウトプットする、習慣化する、ことに重点を置く。「覚えた気になる」だけでは得点にはならない。そこを見逃さずに学生と関わっていく。とくに、下位成績の学生に関しては徹底して関わってゆく。

#### 4) 実習評定について

実習に臨む際に過緊張の学生も多い。また評定に関しては採点のブレもあるので基準を明確に

した。具体的には、「評定3＝模倣ができる」という基準にした。さらに実習期間中だけで学びを終わらせることなく、実習前の準備や実習後の取り組みも評価するシステムにした。また、実習前の取り組みとして、学生基礎力の取り組みを行っている。専用のシートを用い学生に必要とされる基礎的な能力を明確にし、共有している。

実習前に学生をよく理解するために、「QU」という心理テストを実施した。客観的な視点で学生捉えること狙っている。「できている実感」と「承認欲求」の2軸で構成されており学生指導に活用している。また、実習前実技試験も実施している。実習後は、試験等はしないが十分時間をかけて学生フィードバックをするようにしている。

## 2. 委員からの質問、意見、感想

三沢委員：カリキュラムマップは具体的にはどういう活用をしているのか？

中浦学科長：現在は未だ使用していないが、共有していき自己目標の立てるときなどに活かしたい。

小檜山委員：常に学生の視覚に入るような場所に掲示などしておく、指導もしやすいのではないかな。

小檜山氏：強化された国家試験対策について学生の感想はどんなものがあるか。

中浦学科長：国家試験に向けて集中している実感は持っているようである。模試の再実施も行っている、振り返りの学習の中で学んでいる実感を持っている学生もいる。「やればできる感」も学生は感じている。

三沢委員：夏期の合宿もしているとのことなので、結果が楽しみである。

三沢委員：「QU」を行うことにより、今実習に行っている学生の問題行動など把握しやすくなっているのか。

中浦学科長：効果を感じている。各教員が主観でわかる部分もあるが、客観データがあることで判断材料が増えると感じている。

小檜山委員：その結果は、バイザーとは共有しているのか？

中浦学科長：そのままのデータはお伝えしていないが、それを踏まえてバイザーと情報共有している。

三沢委員：今まで実習を受け入れてきて、学校の中での様子では実習先での問題が想定されない学生、課題ができない学生、体調管理ができない学生などがいた。中には、実習を中断した学生もいた。そんな学生にも「QU」を活用して、事前に気になる点など想定し声かけなどができると良いと思う。

中浦学科長：実際に、「QU」で問題を把握し、学生と面接したことで具体的に課題を把握できたことがあった。また2月に実施予定なので、学生の変化なども把握したいと考えている。

小檜山委員：自分は今学生と接する機会が少ないのだが、最近の学生は、治療に介入するための引き出しは沢山持っているのだろうか？

三沢委員：私もそれほど直に指導はしていないが、そんなに大きな問題なく実習を進めていく学生が多い。実習指導者の負担も含めて、こちらあまり深いかわりはず、どちらかというと体験型になっている。無いものから生み出すというより、あるものを引き出すような形での指導なので、学生の引き出し自体は多くないと思う。

中浦学科長：今後、どのように学校と臨床現場が連携をして学生を育てて行くのか考えていきたい。

三沢委員：ＣＣＳ（クリニカルクラークシップ）を推奨するとなっていたが、実施していくのか。

作業療法士なりのＣＣＳをどうするのか。先日の作業療法士協会の研修では、MTDLP（生活行為向上マネジメント）を使ってＣＣＳをやるというのもよいとのこと。

中浦学科長：そのような流れも含めて、養成校から実習施設に伝えていく必要があると考えている。

小檜山委員：今日の話し合いで、学生の為に様々なことの「見える化」に尽力しているのがよく分かった。

以上